

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

中期目標 実施事項及び内容		中期計画 実施事項及び内容		業務の実績		自己評価	自己評価の理由	備考	No
(5) 市への貢献に関する目標 市のシンクタンクであること を自覚し、市と連携しながら 市の掲げる施策に積極的に関 与することにより、市の発展 に貢献するとともに、市民の 生活及び文化の向上に寄与す る。	(6) 市への貢献に関する目標 を達成するための措置 ○青森市の発展や市民生活の 向上など、地域貢献に資する 目的から、青森市の施策等に 関する取組に積極的に参画す る。	○市のシンクタンクであることを自覚し、市と連携しながら、中心市街地活性化事業、産官学連携による共同研究等、青森市が抱える施策に積極的に関与し、課題解決に向けた取組を行った。  ●青森市の各種審議会等への参画 平成27年度 11件 平成28年度 14件 平成29年度 14件 平成30年度 12件 令和元年度 15件 令和2年度 22件 ＜主な審議会等委員＞ 青森市総合計画審議会(会長・委員)、青森市都市計画審議会(会長)、青森市教育委員、青森市子ども・子育て会議(委員)、青森市情報公開・個人情報保護審査会(委員)、青森市第三セクター経営評価委員会(委員長)など	●地域貢献に寄与する公開講座の開催 平成27年度 34回 平成28年度 55回 平成29年度 39回 平成30年度 46回 令和元年度 42回 令和2年度 32回 ＜主な講座等＞ 「ねぶた学」、「データ見る青森県～国勢調査100年が示すもの」 「価値共創！現場から、青森の地域価値創造を提言する」、 ●青森リモーターワーク人材誘致研究会への参画(令和2年度～) 構成員：青森市、青森商工会議所、青森公立大学 オプザバーバー：NTT東日本、NPO法人あおもりIT活用サポートセンター	A	市のシンクタンクと連携して、市と緊密に連携し、施策や地域貢献のために積極的に参画することともに、地域貢献の基本方針に基づき新たな取組を実施していることから自己評価をAとしました。				36

【次頁へ続く】

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

中期目標 実施事項及び内容	中期計画 実施事項及び内容	業務の実績	自己評価	自己評価の理由	備考	No
	<p>【前頁からの続き】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域貢献事業           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「青森まるっとよいどころ祭り」(平成26年度～)</li> <li>※令和元年度は台風の影響により中止</li> <li>※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からWeb開催</li> <li>・ コンサート(平成26～平成28年度)</li> <li>・ 講演会(平成26～平成28年度)</li> <li>・ 学生によるファッションショー(平成26～平成29年度)</li> </ul> </li> <li>● 青森市中心市街地活性化協議会青森公立大学連携事業 中心市街地活性化に向けた調査研究(平成25～平成27年度)</li> <li>● 青森市産官学連携会議への参画(平成29年度～) 共同研究「青森市六大学生の生活実態調査」(平成29年度～令和2年度)</li> <li>● 共同研究「共通学生管理システムの研究」(令和元年度) 合同学修・研究発表会への参加(平成30年度～)</li> <li>● 学生によるワークショップ等の活動 まちづくり政策形成市民懇談会(平成27年度)</li> <li>● ゼミ活動・フィールドワーク等 青森市全域(浅虫・油川・浪岡地区等)</li> <li>● 青森市学生ビジネスアライアンスアライアンスアライアンス、創業・起業に関する共催セミナー等への学生派遣(平成30年度～) ※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止</li> </ul> <p>【次頁へ続く】</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">前頁参照</p>				

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置  
 3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

中期目標 実施事項及び内容	中期計画 実施事項及び内容	業務の実績	自己評価	自己評価の理由	備考	No
		<p>【前頁からの続き】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 国際芸術センター青森での市内小学生等のための教育普及等事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・創作体験                   <ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度 26件 参加者1,548名</li> <li>平成28年度 23件 参加者1,205名</li> <li>平成29年度 22件 参加者1,161名</li> <li>平成30年度 24件 参加者1,454名</li> <li>令和元年度 33件 参加者1,509名</li> <li>令和2年度 21件 参加者1,201名</li> </ul> </li> <li>※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から受入期間を短縮</li> </ul> </li> <li>・AOMORIトリエンナーレ（平成29年度）への開催協力               <ul style="list-style-type: none"> <li>※令和2年度「AOMORIトリエンナーレ2020」は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止</li> </ul> </li> <li>・ねぶたアート創生プロジェクト（令和2年度）への開催協力</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 交流施設貸出 期日前投票所開設（平成29年度～）</li> <li>● 平澤市からの留学生受入（～平成29年度）</li> <li>● 青森市長による特別講義の実施（平成29年度） テーマ：地域課題にチャレンジ！青森公立大学生に期待すること</li> <li>● FD研修として、青森市長講演（地域の中核を担う大学として～青森公立大学に期待すること～）を開催した。</li> </ul>	前々頁参照			
第2-3 地域貢献に関する目標						
			A：中期目標を上回って達成している			8
			B：中期目標を十分に達成している			5
			C：中期目標を十分には達成していない			0
			D：中期目標を達成していない			0

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

3 地域貢献に関する目標

特記事項		備考
○	平成30年度に実施した公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）では、「社会連携・社会貢献」について「S」評定（大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的を實現する取り組みが卓越した水準にあること）を受けた。具体的な評価内容は、次のとおり。 ●大学による継続的な社会貢献や地域みらい学科の学生によるフィールドリサーチ等から自治体との連携が進み、佐井村においては、各家庭にニュース・警報・お知らせの配信、安否確認可能な機能等の情報端末機器を設置し、学生によるその後の利用状況ヒアリング調査や訪問調査等を行っていること。 ●他の自治体からの大学側へ連携協定の申込みも増え、各自治体との双方向的な連携協定が長期にわたって行われていること。 ●連携協定を締結している県内自治体へ学生が赴き、地域住民とともに調査・企画立案した特産品を集めた物産品店を通じて、各地域のPRを図る「まるっとよいどころ祭り」が、現在では大学主催となり、学生が企画に参加することで大学と市民をつなぐ青森市の一大イベントに成長していること。	

大項目評価（中期目標評価）		備考
地域貢献に関する目標の達成については、第2期中期計画に基づき実施した結果、概ね次の取組結果となった。		
3-1(1)	地域連携の強化に関する目標 ゼミ活動やフィールドスタディにおいて、地元情報を提供するとともに、学外での活動に必要なバスの手配するなど、教職員が地域の活動に参加しやすい環境及び学生が地域課題や地域貢献に取り組みやすい環境を提供した。 また、地域連携センターの体制及び施設整備の見直しを行い、研究活動・ワークショップ等を行うことができるとともに、コンサルテーション・イベント、青森市産官学連携協議会との協定に基づく各種連携事業の実施や高校関係者との懇談会の実施、県内自治体との連携協定の締結、青森県との連携事業の実施などにより、地域の課題解決や地域活性化に関する活動を支援した。	
3-1(2)	情報提供に関する目標 定期的な公開講座の開催やケーブルテレビでの放送、まちなかラボに公開講座を閲覧できる環境「メディアラボ」の整備のほか、学術リポジトリに紀要等を掲載するなど、情報発信の充実を図った。 また、教員及び事務職員で構成する広報担当者連絡会議を立ち上げ、その中で検討・提案されたパンフレットの作成、天気フライヤーの放映、CMSを導入したホームページのリニューアルなどにより、大学情報を積極的に発信した。	
3-1(3)	国際交流に関する目標 教員の海外学会への参加・調査活動のほか、海外研究者を招聘した研究会の開催の実施によりグローバルな視点からの研究を推進した。 また、国際芸術センター青森の「アーティスト・イン・レジデンス事業」において、制作補助やワークショップ等を通じて、海外アーティストと学生や市民との国際交流の推進を図った。	
3-1(4)	人材供給に関する目標 採用企業への受入先の確保や起業関連情報の収集、県内バツイアーの実施による企業と学生との間に接点を作ることなどより、地域への人材の定着に向けた取組を推進した。 また、平成31年度以降の教職課程継続に向け、再課程認定を受けたことで、教育界への人材供給を通じた地域への貢献を図った。	
3-1(5)	市への貢献に関する目標 青森市中心市街地活性化を目的とした地域貢献事業の実施や学生による調査研究活動及び行政課題に対する学生によるワークショップの実施のほか、青森市産官学連携会議と連携し、青森市への経済効果に関する共同研究を行うなど、青森市の施策等に参画した。	
これらのことから、地域貢献については、中期目標を上回って達成している項目が8項目、中期目標を十分に達成している項目が5項目、中期目標を十分に達成していない項目が0項目となっており、十分に達成できたものと評価する。		

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

中期目標		中期計画		業務の実績	自己評価	自己評価の理由	備考	No
実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容					
<p>1 運営体制の改善に関する目標</p> <p>理事長を頂点としたトップマネジメントのもと、副理事長（学長）及び各部門長の権限と責任を明確にし、法人としての確かな業務運営が行われる、法人がした確かな意思決定の迅速性、柔軟で弾力的な対応を、通じ、効率的に機能する運営体制を整備維持する。また、運営に関する意見を学内外から聴取する体制を確立し、将来的な経営戦略の構築、事業戦略の着実な達成に反映させるための取組を行う。</p>	<p>1 運営体制の改善に関する目標</p> <p>(1) 全学的な組織体制の運用</p> <p>図る目的から、法人経営と教学全般を包括する執行部機関の運用を進める。</p>	<p>業務の実績</p> <p>(1) 全学的な組織体制の運用</p> <p>○法人経営と教学全般を包括する戦略会議を定期的に開催した。</p> <p>＜開催回数＞</p> <p>平成27年度 18回</p> <p>平成28年度 22回</p> <p>平成29年度 11回</p> <p>平成30年度 11回</p> <p>令和元年度 11回</p> <p>令和2年度 11回</p>	B	<p>計画に基づき、業務を実施していることから自己評価をBとした。</p>	37			
<p>2 教育研究・地域貢献組織の見直しに関する目標</p> <p>教育研究の進展や社会及び地域情勢の変化に的確に対応し、高度な教育研究活動及び地域貢献活動が継続的に行われるよう、教育研究組織及び地域貢献組織について随時見直しを行う。</p>	<p>(2) 学内外からの意見を聴取する仕組みの検討</p> <p>○審議会等の委員や各種アンケート調査等により、学内外からの大学運営に関する意見を聴取し、活用させる仕組みの充実を図る。</p>	<p>(2) 学内外からの意見を聴取する仕組みの検討</p> <p>○外部有識者等を構成員を含む経営審議会や教育研究審議会において、各種案件の審議に当たり、意見を聴取した。また、理事会終了後、青森市長と役員との間で意見交換を実施した。</p> <p>○公開講座の参加者や「青森まるっとよいどころ祭り」の参加者等へのアンケート調査を実施した。</p>	B	<p>計画に基づき、業務を実施していることから自己評価をBとした。</p>	38			
<p>2 教育研究・地域貢献組織の見直しに関する目標</p> <p>教育研究の進展や社会及び地域情勢の変化に的確に対応し、高度な教育研究活動及び地域貢献活動が継続的に行われるよう、教育研究組織及び地域貢献組織について随時見直しを行う。</p>	<p>2 教育研究・地域貢献組織の見直しに関する目標を達成するための措置</p> <p>○時代の変化と社会の要請に対応した教員職員の配置を機動的に実施する。</p> <p>○地域連携センターで実施する事業実績の分析と効果を定期的に検証する。</p>	<p>○教員の各種委員会をはじめとする学内組織等への関与や授業時間割等を総合的に考慮しながら、学内組織体制を整えた。</p> <p>○大学設置基準による教員数を充足させるために、欠員が生じた場合、速やかに公募するとともに、新たに教育担当特別教授制度を創設し、教員の確保に努めた。</p> <p>○平成29年度に青森公立大学地域貢献のあり方検討会議を設置し、大学の地域貢献の基本方針・指針の基つき、地域連携センターの運営体制を見直し、旧地域研究センターの施設整備、まちなかラボの機能整理等を行った。</p> <p>＜地域連携センターの拠点を大学内へ移動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧地域研究センターの施設整備（スタートアップラボの設置等）</li> <li>・まちなかラボの機能整理（メディアアラボ設置等）</li> <li>・地域貢献活動のための車両借上げ</li> <li>・研究員への「地域貢献研究活動等推進費」の配分</li> </ul>	B	<p>計画に基づき、業務を実施していることから自己評価をBとした。</p>	39			

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

中期計画		業務の実績	自己評価	自己評価の理由	備考	No
実施事項及び内容	実施事項及び内容					
<p>3 人事の適正化に関する目標</p> <p>中長期的な人事計画の策定により、業務内容に応じた専門性を有する優秀な人材を確保し、人事諸制度を継続的に進展させ、大学の業務運営を効率的に遂行するための必要な職員体制及び人員管理を確立するとともに、適正な給与制度となるよう随時見直しを行う。</p>	<p>3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置</p> <p>○改正地方公務員法の人事評価制度を踏まえた評価制度の導入を進める。</p> <p>○人事評価が適正に反映される給与制度の導入を進める。</p> <p>○人材育成を図るため、体系的な研修制度を確立する。</p> <p>○事務局の業務内容、業務分担を見直し、適正な組織体制のあり方を検討する。</p> <p>○教員の雇用形態について、任期制・定年制の一元化を進める。</p> <p>○大学設置基準及び大学院設置基準に定められた教員数を維持しつつ、教育・研究の質の向上が図られるよう、教員の確保に努める。</p>	<p>業務の実績</p> <p>○事務職員の人事評価については、青森市の制度を参考に、能力評価及び業績評価の試行を実施した。また、自己申告書による配置等の要望を調査し、適切な職場環境の構築を図った。</p> <p>○教員の人事評価については、他大学等の調査を行い、評価基準や評価項目、評価手順等を検討し、令和2年度に試行を実施した。</p> <p>○内部研修の実施や公立大学協会等が実施する外部研修へ参加させたほか、FD・SD研修に加え、青森市の研修へ参加させた。</p> <p>○業務マニキュアルを作成し、それに対するスクラップアンドビルドを行い、平成30年度に事務局内の構成及び事務の質・量の検証を行った。</p> <p>○教員に加え、学芸員及び専任研究員について、平成27年度から定年制へ順次移行した。</p> <p>○平成29年度に教育担当特別教授の制度を創設し、大学設置基準及び大学院設置基準を充足する教員数を確保した。</p>	B	<p>計画に基づき、業務を実施していることから自己評価をBとした。</p>		40
<p>4 事務等の効率化・合理化に関する目標</p> <p>事務局組織の執行体制を随時見直しするとともに、事務の適切な配分と簡素・効率化、外部委託の積極的な導入などにより、可能な限りの効率化に継続して取り組む。</p>	<p>4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置</p> <p>○事務内容の検証により、外部委託等の可能な事務のアウトソーシングを進める。</p> <p>○内部事務の見直しを進め、事務の効率化を図り、事務配分の機動的な見直しを進める。</p>	<p>○旅費支払業務、勤怠管理業務等についてアウトソーシングを検討する中で、業務の簡素化やシステム導入による業務の効率化を図った。</p> <p>○業務マニキュアルを作成し、それに対するスクラップアンドビルドを行い、事務局内の構成及び事務の質・量の検証を行った。</p> <p>○新たな財務システムを導入し、事務の効率化、迅速化を図った。</p> <p>○公的研究費に係る旅費支払業務や領収書による立替払の単純化等により事務の効率化を図った。</p> <p>○事務の専決区分の見直しにより事務の効率化を図った。</p>	B	<p>計画に基づき、業務を実施していることから自己評価をBとした。</p>		41
<p>5 広報活動の推進に関する目標</p> <p>受験生のみならず、高等学校等関係者や広く地域住民に対して、教育研究活動、地域貢献活動や受入体験、学生生活、就職状況等の情報を発信することにより、大学の特色や魅力について関心が高まるよう、効果的な広報活動を実施し、積極的に大学の情報発信による見える化を推進する。</p>	<p>5 広報活動の推進に関する目標を達成するための措置</p> <p>○ホームページ等を通じ、大学の現況についてのタイムリーな情報発信に努める。</p> <p>○大学における人材情報、受託研究、調査情報等を各種広報媒体を通じて広く発信する。</p>	<p>○ホームページや広報誌の充実を図るなど、大学情報を積極的に発信した。</p> <p>○ホームページの発行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学季刊誌の発行（平成30年度から）の発行</li> <li>・大学パンフレットの作成</li> <li>・記者会見の実施</li> <li>・青森市議会議員への大学の近況報告会の実施</li> <li>・プレスリリースの対応手順の決定</li> <li>・天気フライヤーの放送（平成29～平成30年度）</li> <li>・大学ホームページをリニューアル（平成30年度）</li> <li>・学部・学科・就職支援等の動画の制作及び配信（令和2年度）</li> <li>・イメージ動画の制作着手（令和2年度）</li> </ul>	B	<p>計画に基づき、業務を実施していることから自己評価をBとした。</p>		42

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	自己評価	自己評価の理由	備考	No
実施事項及び内容	実施事項及び内容				
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標	業務の実績				
	A：中期目標を上回って達成している	0			
	B：中期目標を十分に達成している	6			
	C：中期目標を十分には達成していない	0			
	D：中期目標を達成していない	0			

特記事項	備考
なし	

大項目評価（中期目標評価）	備考
<p>業務運営の改善及び効率化に関する目標の達成については、第2期中期計画に基づき実施した結果、概ね次の取組結果となった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 運営体制の改善に関する目標 法人経営と教学全般を包括する戦略会議を定期的に開催するとともに、外部有識者等の構成員とする各種審議会等における意見聴取のほか、理事会終了後の市長との意見交換を実施するなど、将来的な経営戦略の構築・事業戦略を着実に達成するための取組を行った。</li> <li>2 教育研究・地域貢献組織の見直しに関する目標 また、「青森公立大学地域貢献のあり方検討会議」を設置し、大学の地域貢献の基本方針・指針を策定するとともに、地域連携センターの拠点を大学院棟に移すなど、新たな体制を整備した。</li> <li>3 人事の適正化に関する目標 教員の昇任基準を見直し、新たな基準に基づき、教員を昇任したほか、事務職員の人事評価について、市の制度に準拠した人事評価の試行を行うなど、評価制度の導入を進めた。なお、教員の人事評価については、他大学等の調査を行い、評価基準や評価項目、評価手順等を検討し、令和2年度に試行を実施した。</li> <li>4 事務等の効率化・合理化に関する目標 また、教員の定年化や事務局内の構成及び業務の質・量の検証を行い、新たに教育担当特別教授制度を創設し、大学設置基準及び大学院設置基準を充足する教員数を確保するなど、人員の適正化に努めた。</li> <li>5 新たな財務システムの導入による事務の効率化のほかに、旅費の支払業務や勤怠管理業務等について、業務の簡素化や効率化を図るため、アウトソーシングの検討を行った。</li> <li>6 広報活動の推進に関する目標 また、事務局組織の見直しや専決規程の見直しによる事務の効率化を図った。</li> <li>7 教員及び事務職員で構成する広報担当者連絡会議を立ち上げ、その中で検討・提案された内容等を踏まえたパンフレットの作成、天気フライヤーの放映、CMSを導入したホームページのリニューアル、大学紹介の動画の制作・配信などにより、大学情報を積極的に発信した。</li> </ol> <p>これらのことから、業務運営の改善及び効率化については、中期目標を上回って達成している項目が0項目、中期目標を十分に達成している項目が6項目、中期目標を十分には達成していない項目が0項目となり、十分に達成できなかったものと評価する。</p>	

第4 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

中期目標		中期計画		業務の実績	自己評価	自己評価の理由	備考	No
実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容					
<p>1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標</p> <p>(1) 教育関連収入に関する目標</p> <p>入学検定料、入学科、授業料等の学生納付金、受講料等については、引き続き、東草地域(青森市及び東津軽郡)及び県内の学生に配慮しつつ、社会的事情を考慮して適正な料金設定としながら、着実な収入確保を図る。</p>	<p>1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育関連収入に関する目標を達成するための措置</p> <p>○社会情勢に配慮しながら、料金設定の適正性を検証する。</p> <p>○受験生確保のために高校訪問、オープンキャンパス、各種情報発信等を戦略的かつ積極的に行う。</p>	<p>○社会情勢を踏まえ、料金設定の適正性を確保しつつ収入を確保した。</p> <p>○受験生確保のため、高校訪問や進学説明会、年2回のオープンキャンパス等において、戦略的かつ積極的に情報発信を行い、受験生の確保に努めた。</p> <p>＜受験者数/志願者数＞</p> <p>平成27年度 受験者数846名/志願者数881名</p> <p>平成28年度 受験者数806名/志願者数843名</p> <p>平成29年度 受験者数902名/志願者数949名</p> <p>平成30年度 受験者数889名/志願者数936名</p> <p>令和元年度 受験者数816名/志願者数867名</p> <p>令和2年度 受験者数790名/志願者数842名</p>	B	<p>○国、自治体、財団法人、民間等の外部研究費(科学研究費補助金等)等の獲得増に向けて、情報収集・提供を行い、外部研究費等を継続的に獲得した。</p> <p>＜外部資金獲得状況＞</p> <p>●受託研究・受託事業</p> <p>平成27年度 3件/2,700千円</p> <p>平成28年度 0件</p> <p>平成29年度 2件/600千円</p> <p>平成30年度 2件/500千円</p> <p>令和元年度 2件/3,200千円</p> <p>令和2年度 2件/429千円</p> <p>●学術文化振興財団助成金</p> <p>平成27年度 25件/15,876千円</p> <p>平成28年度 18件/9,714千円</p> <p>平成29年度 23件/10,632千円</p> <p>平成30年度 23件/11,295千円</p> <p>令和元年度 18件/9,232千円</p> <p>令和2年度 8件/2,009千円</p> <p>●科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)</p> <p>平成27年度 9件/5,525千円</p> <p>平成28年度 12件/8,294千円</p> <p>平成29年度 9件/7,492千円</p> <p>平成30年度 7件/6,520千円</p> <p>令和元年度 5件/6,032千円</p> <p>令和2年度 5件/2,847千円</p>	<p>計画に基づき、業務を実施していることから自己評価をBとした。</p>		43	
<p>(2) 研究関連収入に関する目標</p> <p>国の科学研究費補助金等の各種制度の有効活用や、産学官金・各種団体等との連携による外部研究資金、奨学金等の外部資金の獲得に努める。</p>	<p>(2) 研究関連収入に関する目標を達成するための措置</p> <p>○科学研究費補助金等の競争的資金の獲得増に向けて、競争的資金情報の収集、提供、申請の奨励に努める。</p> <p>○地域連携センターを中心に収集した国、自治体、財団法人、民間等の外部研究費等に関する情報を学内で共有し、外部資金の獲得増に努める。</p>	<p>○国、自治体、財団法人、民間等の外部研究費(科学研究費補助金等)等の獲得増に向けて、情報収集・提供を行い、外部研究費等を継続的に獲得した。</p> <p>＜外部資金獲得状況＞</p> <p>●受託研究・受託事業</p> <p>平成27年度 3件/2,700千円</p> <p>平成28年度 0件</p> <p>平成29年度 2件/600千円</p> <p>平成30年度 2件/500千円</p> <p>令和元年度 2件/3,200千円</p> <p>令和2年度 2件/429千円</p> <p>●学術文化振興財団助成金</p> <p>平成27年度 25件/15,876千円</p> <p>平成28年度 18件/9,714千円</p> <p>平成29年度 23件/10,632千円</p> <p>平成30年度 23件/11,295千円</p> <p>令和元年度 18件/9,232千円</p> <p>令和2年度 8件/2,009千円</p> <p>●科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)</p> <p>平成27年度 9件/5,525千円</p> <p>平成28年度 12件/8,294千円</p> <p>平成29年度 9件/7,492千円</p> <p>平成30年度 7件/6,520千円</p> <p>令和元年度 5件/6,032千円</p> <p>令和2年度 5件/2,847千円</p>	B	<p>計画に基づき、業務を実施していることから自己評価をBとした。</p>		44		



第4 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

中期目標		中期計画		業務の実績	自己評価	自己評価の理由	備考	No
実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容					
<p>(3) その他外部資金の獲得に関する目標</p> <p>大学施設・設備等の有効活用の観点から、収入の拡大策を常に検討し、教育研究活動に支障を及ぼさない範囲において、適切な使用料や利用料を設定して積極的に開放することとともに、地域貢献活動その他の自主事業の実施により、自己収入の増加を図る。</p>	<p>(3) その他外部資金の獲得に関する目標を達成するための措置</p> <p>○国、自治体、財団法人、民間企業等からの外部資金に関する情報収集をすすめる、資金獲得に努める。</p> <p>○各種寄附金等の獲得増に努める。</p> <p>○国際芸術センター青森や交流施設、大学の施設・設備の貸出しによる収入増を図るため、利用促進のPRや使用料金についての検証に努める。</p>	<p>業務の実績</p> <p>○国、自治体、財団法人、民間等の外部資金等の獲得増に向けて、情報収集・提供を行い、外部資金等を継続的に獲得した。</p> <p>&lt;外部資金獲得状況&gt;</p> <p>・その他助成金等（国際芸術センター青森）</p> <p>平成27年度 2件／6,773千円</p> <p>平成28年度 1件／5,000千円</p> <p>平成29年度 2件／5,100千円</p> <p>平成30年度 2件／2,100千円</p> <p>令和元年度 2件／1,600千円</p> <p>令和2年度 3件／4,042千円</p>	<p>○平成28年4月から地域貢献の一環として、新たに講義室や体育施設の一般貸出を実施した。</p> <p>&lt;交流施設（講堂・交流ホース・国際交流ハウス）貸出実績&gt;</p> <p>平成27年度 369件／7,959千円</p> <p>平成28年度 428件／9,165千円</p> <p>平成29年度 376件／8,309千円</p> <p>平成30年度 300件／7,255千円</p> <p>令和元年度 245件／5,980千円</p> <p>令和2年度 120件／2,442千円</p> <p>&lt;講義室・体育館貸出実績&gt;</p> <p>平成27年度 貸出未実施</p> <p>平成28年度 76件／359千円</p> <p>平成29年度 109件／556千円</p> <p>平成30年度 143件／711千円</p> <p>令和元年度 94件／626千円</p> <p>令和2年度 237件／939千円</p> <p>&lt;国際芸術センター貸出実績&gt;</p> <p>平成27年度 67件／532千円</p> <p>平成28年度 49件／357千円</p> <p>平成29年度 63件／1,542千円</p> <p>平成30年度 50件／376千円</p> <p>令和元年度 43件／303千円</p> <p>令和2年度 33件／975千円</p>	B	<p>自己評価の理由</p> <p>計画に基づき、業務を実施していることから自己評価をBとした。</p>			45

第4 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	業務の実績	自己評価	自己評価の理由	備考	No
<p>2 経費の抑制に関する目標</p> <p>毎年度、大学運営に要する経費として市から交付されている交付金が税金で賄われていることを十分認識し、大学運営業務全般を通じて、支出内容の精査に努めるとともに、市民負担が最少となるよう業務改善や事務事業の効率化、適切な外部委託の推進などにより経費の抑制し、自律的な大学運営の確保に努める。</p>	<p>2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置</p> <p>○教職員のコスト意識の涵養に取組む、大学の運営及び教育の質の改善を優先し、業務環境や業務の改善を進め、業務量及び経費の削減に努める。</p> <p>○情報システムの更新により、事務処理の効率化、迅速化及び管理の一元化を図る。</p> <p>○契約期間の複数年度化や契約方法の競争的環境の確保等により管理経費の抑制に努めるとともに、効率化が見込める業務については外部委託化を検討する。</p> <p>○財務状況の分析に基づき、柔軟な予算組替えと効率的な予算執行に努める。</p> <p>○新しい情報システムを導入し、各種システム間の連携を強め、更なる業務の効率化・迅速化を図る。</p>	<p>業務の実績</p> <p>○予算編成においては、費用対効果の観点から事業の見直しを徹底し、スクラップアンドビルドを行い、毎年度効率化係数1%の実施など効果的な事業運営及び収入の確保を図った。</p> <p>＜運営費交付金の状況＞</p> <p>当初予算 平成26年度対比</p> <p>平成26年度 488,941千円          平成27年度 472,142千円          平成28年度 460,137千円          平成29年度 448,252千円          平成30年度 436,485千円          令和元年度 424,835千円          令和2年度 413,302千円</p> <p>○新たな学事情報システムを導入し、手入力をOCR読込、履歴登録をマークシート履修からパソコン入力による履歴及びOCR読込履修に変更し、業務の効率化を図った。</p> <p>○新たな財務システムを導入し、事務処理の効率化、迅速化等を図った。</p> <p>○業務の外部化を検討する中で、事業内容の検証を進め、システム化等により業務の簡素化や効率化を図った。</p> <p>○財務状況を分析し、予算執行に当たり、支出内容の精査や業務改善・事務処理の効率化に努め、効率的に予算執行するよう努めた。</p> <p>○新たな情報システムを導入し、業務の効率化や迅速化を図った。</p> <p>○旅費支払業務、勤怠管理業務等についてアウトソーシングを検討する中で、業務の簡素化やシステム導入による業務の効率化を図った。</p> <p>○業務マニュアルを作成し、それに対するスクラップアンドビルドを行い、事務局内の構成及び事務の質・量の検証を行った。</p> <p>○公的研究費に係る旅費支払業務や領収書による立替払の簡素化等により事務の効率化を図った。</p> <p>○事務の専決区分の見直しにより事務の効率化を図った。</p>	<p>A</p>	<p>自己評価の理由</p> <p>新たな情報・財務システムの導入により事務処理の効率化、迅速化及び管理の一元化が図られたほか、支出内容の精査や業務改善・事務事業の効率化、外部化の検討、財務状況の分析等により、毎年度効率化係数1%の予算の削減に対応したことから、自己評価をAとした。</p>		46
<p>3 資産の運用管理の改善に関する目標</p> <p>大学が保有する土地、施設、設備等の資産については、適正に管理し、有効活用を図るとともに、資金については、安全かつ効率的に運用する。</p>	<p>3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>○資産の状況を点検・把握し、適切な管理を行い、より一層効果的な活用に努める。</p> <p>○余裕資金の安全かつ効果的な運用について検討する。</p>	<p>○固定資産の現物確認を実施し、適正な資産管理を行うとともに、資産運用の検討をするために市場の動向を調査した。</p>	<p>B</p>	<p>自己評価の理由</p> <p>計画に基づき、業務を実施していることから自己評価をBとした。</p>		47

第4 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

中期目標 実施事項及び内容	中期計画 実施事項及び内容	業務の実績	自己 評価	自己評価の理由	備考	No
第4 経営・財務内容の改善に関する目標						
		A：中期目標を上回って達成している	1			
		B：中期目標を十分に達成している	4			
		C：中期目標を十分には達成していない	0			
		D：中期目標を達成していない	0			

特記事項	備考
第3期中期計画期間の運営費交付金について、効率化係数1%削減を継続することとした。	

大項目評価（中期目標評価）	備考
<p>経営・財務内容の改善に関する目標の達成については、第2期中期計画に基づき実施した結果、概ね次の取組結果となった。</p> <p>1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標 競争的資金及び各種補助金・助成金等の情報を学内で共有し、外部資金の獲得に努めるほか、受験生確保のための高校訪問、オープンキャンパス等において、戦略的かつ積極的な情報発信により受験生の確保に努めた。 また、国際芸術センター青森や交流施設等の施設・設備の利用促進に努めた。</p> <p>2 経費の抑制に関する目標 予算編成での費用対効果の観点から事業の見直しや業務の外部化を検討する中での事業内容の検証を進めるなど業務の簡素化・効率化を図った。また、新たな財務システムの導入や業務の外部化の検証を進めるなど業務の簡素化・効率化を行った。</p> <p>3 資産の運用管理の改善を行うとともに、資産状況の点検・把握の実施、適正な資産管理や資産運用の検討を行った。 また、資産状況を点検・把握し、適切な管理及び一層効果的な活用等に努めた。</p> <p>これらのことから、経営・財務内容の改善については、中期目標を上回って達成している項目が1項目、中期目標を十分に達成している項目が4項目、中期目標を十分には達成していない項目が0項目となり、十分に達成できたものと評価する。</p>	

第5 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

中期目標		中期計画		自己評価	自己評価の理由	備考	No
実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容				
<p>1 評価の充実に関する目標 業務運営改善のため、法人経営・教育研究、地域貢献及び組織・業務運営の状況について、定期的かつ継続的に自己点検及び自己評価を実施するとともに、評価の客観性を確保するため、第三者機関による外部評価を受ける。</p>	<p>1 評価の充実に関する目標を達成するための措置 ○教員、事務職員の目標設定を明確にし、定期的な自己点検、自己評価を行うことにより業務運営の改善を図る。 ○第三者機関による定期的な外部評価を受け、改善策を検証するとともにホームページ等において公表する。</p>	<p>業務の実績</p> <p>○平成23年度に実施した外部認証評価において指摘された事項について改善し、その内容を職員等で共有するとともに大学ホームページで公表した。また、平成30年度の外部認証評価において適正な資料提出及び実地調査の対応を行い、「適合」の評価結果を受けた。なお、「学生支援」及び「社会連携・社会貢献」の2項目で最上位の評価である「S」評価を受けた。評価結果は大学ホームページで公表した。</p> <p>＜平成23年度外部認証評価＞ ・大学基準協会からの改善報告書の検討結果に対する通知（平成28年度）</p> <p>＜平成30年度外部認証評価＞ ・評価結果「適合」 ・評定（S・A・B・Cの4段階） 評価状況（11項目） S：2項目、A：6項目、B：3項目、C：無し</p> <p>＜改善検討課題＞ ●学部ディプロマポリシーに示す学習成果を十分に把握できていないと良いがたいため、成績評価システムを構築した。（令和元年度改善済）</p> <p>●大学院博士前期課程の収容定員に対する在学生比率が低いため、入学定員を変更した。（平成30年度改善済）</p> <p>●大学院固有のFDが行われていなかったが平成30年度より実施した。（平成30年度改善済）</p> <p>●学部・大学院のカリキュラムポリシーにディプロマポリシーの内容を具体的に反映するよう改善が求められる。（改善検討中）</p>	<p>業 務 の 実 績</p> <p>○平成23年度に実施した外部認証評価において指摘された事項について改善し、その内容を職員等で共有するとともに大学ホームページで公表した。また、平成30年度の外部認証評価において適正な資料提出及び実地調査の対応を行い、「適合」の評価結果を受けた。なお、「学生支援」及び「社会連携・社会貢献」の2項目で最上位の評価である「S」評価を受けた。評価結果は大学ホームページで公表した。</p> <p>＜平成23年度外部認証評価＞ ・大学基準協会からの改善報告書の検討結果に対する通知（平成28年度）</p> <p>＜平成30年度外部認証評価＞ ・評価結果「適合」 ・評定（S・A・B・Cの4段階） 評価状況（11項目） S：2項目、A：6項目、B：3項目、C：無し</p> <p>＜改善検討課題＞ ●学部ディプロマポリシーに示す学習成果を十分に把握できていないと良いがたいため、成績評価システムを構築した。（令和元年度改善済）</p> <p>●大学院博士前期課程の収容定員に対する在学生比率が低いため、入学定員を変更した。（平成30年度改善済）</p> <p>●大学院固有のFDが行われていなかったが平成30年度より実施した。（平成30年度改善済）</p> <p>●学部・大学院のカリキュラムポリシーにディプロマポリシーの内容を具体的に反映するよう改善が求められる。（改善検討中）</p>	<p>A</p>	<p>外部認証評価において「適合」の認定を受けるとともに、2つの評価項目において最高位の「S」評価を受けたことから、自己評価をAとした。</p>		48

第5 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	業務の実績	自己評価	自己評価の理由	備考	No
<p>2 評価結果の活用に関する目標</p>	<p>2 評価結果の活用に関する目標を達成するための措置</p> <p>○自己評価、外部評価、毎年度の業務実績評価（年度評価）については、PDCAサイクルに基づき評価結果を検証し改善策を示すとともに、外部に公表する。</p> <p>○評価結果や改善策等については、教員、事務職員がその情報を共有し、全学的な改善に向けた意識の向上に努める。</p> <p>○改善を通し教職員の意識向上を図る目的から、FD及びSD活動を積極的に行う。</p>	<p>○平成23年度に実施した外部認証評価において指摘された事項について改善し、その内容を職員等で共有するとともに大学ホームページで公表した。また、平成30年度の外部認証評価において適正な資料提出及び実地調査の対応を行い、「適合」の評価結果を受けた。なお、「学生支援」及び「社会連携・社会貢献」の2項目で最上位の評価である「S」評価を受けた。評価結果は大学ホームページで公表した。</p> <p>＜平成23年度外部認証評価＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学基準協会からの改善報告書の検討結果に対する通知（平成28年度）</li> </ul> <p>＜平成30年度外部認証評価＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価結果「適合」</li> <li>・評定（S・A・B・Cの4段階）</li> </ul> <p>評価状況（11項目）</p> <p>S：2項目、A：6項目、B：3項目、C：無し</p>	<p>自己評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p>	<p>計画に基づき、業務を実施していることから自己評価をBとした。</p>		49
		<p>＜改善検討課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学部ディプロマポリシーに示す学習成果を十分に把握できているとはいえないため、成績評価システムを構築した。（令和元年度改善）</li> <li>●大学院博士前期課程の収容定員に対する在学生比率が低いため、入学定員を変更した。（平成30年度改善）</li> <li>●大学院固有のFDが行われていなかったが平成30年度より実施した。（平成30年度改善）</li> <li>●学部・大学院のカリキュラムポリシーにディプロマポリシーの内容を具体的に反映するよう改善が求められる。（改善検討中）</li> </ul> <p>○業務実績報告書等の評価結果及び改善結果について、職員等で共有するとともに大学ホームページで公表した。</p> <p>○教員の教育方法や実施体制の改善を目指すため、FD研修を実施した。</p>				

【次頁へ続く】

第5 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

中期目標 実施事項及び内容	中期計画 実施事項及び内容	業務の実績	自己 評価	自己評価の理由	備考	No
<p>3 情報提供に関する目標 公立大学法人としての説明責任を果たすため、教育研究、地域貢献及び組織・業務運営の状況に関する情報、自己点検及び自己・外部評価結果に関する情報については、個人情報保護に留意しながら、積極的に情報提供を行う。</p>	<p>3 情報提供に関する目標を達成するための措置 ○法人の経営及び財務状況、大学の教育、研究及び地域貢献等に対する自己評価、外部評価等の改善策については外部に公表する。 ○個人情報保護に努めるとともに、外部からの情報開示の請求には迅速に対応し、透明性の確保に努める。</p>	<p>【前頁からの続き】</p> <p>&lt;FD研修実施状況&gt; 平成27年度（1回） 1 回目：●研究倫理 平成28年度（2回） 1 回目：●公立大学の制度と課題 2 回目：●研究活動上の不正行為及び公的研究費の不正使用の防止 平成29年度（2回） 1 回目：●発達障害への合理的配慮と授業力の向上 ●本学における障害学生への対応 ●FD活動としてのアクティブ・ラーニング実施方法の検討 ●研究活動上の不正行為及び公的研究費の不正使用の防止 2 回目：●障害のある学生への修学支援 平成30年度（2回） 1 回目：●“学び続ける教員”の基礎を作る大学の教職課程の在り方 ●本学英語科における初年度教育 ●研究活動上の不正行為及び公的研究費の不正使用の防止 2 回目：大学院活性化プロジェクト 令和元年度（1回） 1 回目：●市長講演（地域の中核を担う大学として～青森公立大学に期待すること～） ●研究活動上の不正行為及び公的研究費の不正使用の防止 令和2年度（2回） 1 回目：●オンライン授業 ●公的研究費の不正使用の防止及び研究活動上の不正行為 ●公的研究費ハンドブックの改正事項等 2 回目：●多様化する学生に対する大学院教育の方法</p> <p>○ホームページで、財務諸表、事業報告書、業績実績報告書、外部評価を公表した。 ○情報セキュリティポリシーを制定し、外部からの情報開示請求に迅速に対応できる環境を整備した。</p>	<p style="text-align: center;">前頁参照</p>	<p>計画に基づき、業務を実施していることから自己評価をBとした。</p>		50

第5 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

実施事項及び内容	中期計画		自己評価	自己評価の理由	備考
	実施事項及び内容	業績の実績			
第5 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標					
		A：中期目標を上回って達成している	1		
		B：中期目標を十分に達成している	2		
		C：中期目標を十分に達成していない	0		
		D：中期目標を達成していない	0		

特記事項	備考
<p>○ 監事監査や青森市の財政援助監査、包括外部監査、内部監査のほか、監査法人、税理士、社会保険労務士からの助言等について適切に対応し、法人運営の透明性・公正性の確保に努めた。</p> <p>○ 障害者差別防止・解決委員会において、障害や病気を理由に修学上の配慮や支援等が必要な学生に対し、合理的配慮の内容等を協議し、本学としてその内容等を決定した。</p>	

大項目評価（中期目標評価）	備考
<p>自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標の達成については、第2期中期計画に基づき実施した結果、概ね次の取組結果となった。</p> <p>1 評価の充実に関する目標 平成23年度に実施した外部認証評価において指摘された事項について改善するとともに、その結果をホームページで公表した。 また、平成30年度の外部認証評価において、全11項目中、S評定2項目、A評定6項目、B評定3項目、C評定なしの評価を受け、全体として「適合」判定を受けた。</p> <p>2 評価結果の活用に関する目標 業務実績報告書で計画を十分に実施していない項目について、フォローアップを行い、ホームページ等で公表した。 また、青森市地方独立行政法人評価委員会からの評価結果を踏まえ、提案事項等を整理した上で、実施した。さらには、教員の教育方法や実施体制の改善を目指すため、FD研修を実施した。</p> <p>3 情報提供に関する目標 外部認証評価の結果や財務状況や業務実績等をホームページで公表した。</p> <p>これらのことから、自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供については、中期目標を上回って達成している項目が1項目、中期目標を十分に達成している項目が2項目、中期目標を十分に達成していない項目が0項目となり、十分に達成できたものと評価する。</p>	

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

中期目標		中期計画		業務の実績	自己評価	自己評価の理由	備考	No
実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容					
<p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標</p> <p>大学の施設・設備については、良好な教育研究環境が保持されるよう、適切な維持管理を行うとともに、地域貢献を図るために必要な図書館等の大学施設を開放し、より一層の有効活用を推進する。特に、国際芸術センター青森及び交流施設について、は、かつて市の施設であった経緯を踏まえ、小・中学生を含む市民への利活用の促進を図る。</p>	<p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置</p> <p>○教育内容に応じた施設や設備の整備、改良を計画的に進める。</p> <p>○サテライト施設の利活用についての検証を行う。</p> <p>○良好な教育環境を保持するため、本学施設・設備の維持管理を適切に行う。</p> <p>○地域貢献として図書館等の大学施設を開放し、有効活用を図る。</p> <p>○施設の貸出基準や料金設定については、定期的に検証を行う。</p> <p>○国際芸術センター青森において、青森市の次世代を担う小・中学生を対象とした校外学習受け入れなどの教育プログラムの実施や、広く市民を対象とした芸術作品の展示及びワークショップ等の実施により施設設備利用の促進を図る。</p>	<p>業務の実績</p> <p>○施設・設備について、学内各所へのWi-Fi環境整備、プロジェクター・ディスプレイ更新、オンライン授業システムの構築など、緊急性及び必要性を勘案しながら、整備・改良・維持修繕を行った。</p> <p>○平成28年度から大学施設（講義室、体育館など）の一般貸出を実施した。</p> <p>○キャンパス敷地内の全面禁煙化を継続して実施した。</p> <p>○平成29年度に青森公立大学地域貢献のあり方検討会議を設置し、大学の地域貢献の基本方針・指針を策定した。平成30年度から基本方針・指針に基づき、まちなかラボについては大学のサテライト施設としての機能に加え、地域連携センターの地域活動の拠点としての機能を追加するとともに、公開講座等の映像管理及び閲覧サービスを行う「メディアラボ」機能を追加、青森市の政策研究のための会議の場を提供する環境を整えた。</p> <p>○図書館の施設開放を行った。</p> <p>○平成30年度に料金設定の見直しを行った。</p> <p>○国際芸術センター青森においては、市内小学校を対象とした教育プログラム「創作体験」の受入を実施するとともに、定期的な展覧会及びワークショップの開催、施設改修を行い、市民の施設利用促進を図った。</p> <p>&lt;国際芸術センター青森の状況&gt;</p> <p>平成27年度 展覧会 4回 ワークショップ等 35回 創作体験受入れ 26回 展覧会 24回 ワークショップ等 29回 創作体験受入れ 21回 「四季のアーケード」改修 5回</p> <p>平成28年度 展覧会 27回 ワークショップ等 22回 創作体験受入れ 45回 展覧会 23回 ワークショップ等 4回 創作体験受入れ 51回</p> <p>平成29年度 展覧会 33回 ワークショップ等 2回 創作体験受入れ 37回 ワークショップ等 21回</p> <p>平成30年度 展覧会 27回 ワークショップ等 22回 創作体験受入れ 45回 展覧会 23回 ワークショップ等 4回 創作体験受入れ 51回</p> <p>令和元年度 展覧会 33回 ワークショップ等 2回 創作体験受入れ 37回 ワークショップ等 21回</p> <p>令和2年度 展覧会 27回 ワークショップ等 22回 創作体験受入れ 45回 展覧会 23回 ワークショップ等 4回 創作体験受入れ 51回</p>	<p>自己評価</p> <p>A</p>	<p>自己評価の理由</p> <p>学内各所へのWi-Fi環境整備、プロジェクター・ディスプレイ更新、オンライン授業システムの構築など、緊急性及び必要性を勘案しながら、整備・改良・維持修繕を行った。また、まちなかラボの事業検証を行い、体制及び機能整理、新規事業の実施を行うとともに、国際芸術センター青森において、市民参加事業の増加を図ったことから、自己評価をAとした。</p>		51		



第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

中期目標		中期計画		業務の実績	自己評価	自己評価の理由	備考	No
実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容	実施事項及び内容					
<p>2 安全管理に関する目標</p> <p>学生及び教職員の健康と安全の確保を図り、良好な教育研究環境を提拱するため、防災、学内セキリティ対策、安全衛生等について必要な措置を講ずるための取組を行う。</p>	<p>2 安全管理に関する目標を達成するための措置</p> <p>○青森市との連携のもと、災害発生時においては本学を避難場所として地域住民に開放する。</p> <p>○防災対策と危機管理体制を強化する。</p> <p>○学生、教員、事務職員の健康管理に努め、定期的な健康診断を実施するとともに、健康相談や健康増進指導を図る。</p> <p>○衛生委員会を運営し、学内の安全衛生に関する検証・報告を行う。</p> <p>○学内の情報システムに係る管理保護体制を構築し、ソフトウェアの不正使用防止や情報セキュリティの向上に努める。</p>	<p>2 安全管理に関する目標を達成するための措置</p> <p>○学生、教員、事務職員に対する人権啓発の向上を認識させるとともに、各種ハラスメントによる人権侵害を抑制するため、の防止体制と相談体制の強化を図る。</p> <p>○ハラスメント防止対策委員会を運営し、学内のハラスメントに関する検証・報告を行う。</p>	<p>業務の実績</p> <p>○交流ホール及び体育館、会議室、講義室等が青森市の指定緊急避難場所及び指定避難場所として継続して指定されており、災害時は市の指示により避難所として開放する体制をとった。</p> <p>○教職員及び学生を対象とした消防訓練を実施するとともに、職員を自衛消防講習や防火・防災管理者研修へ派遣し、自衛消防隊の体制の強化を図った。</p> <p>○教職員及び学生を対象に、A.E.D講習会及び「さすまた」の扱い方に関する講習会を実施し、危機管理体制の強化を図った。</p> <p>○学生のための健康診断を毎年度実施し、保健室において当該結果を踏まえて、個別相談や指導の一助とした。</p> <p>○教員・事務職員の健康診断の結果を産業医に報告し、診断指導やアドバイスなどのフォローアップを実施した。</p> <p>○衛生委員会を毎月開催し、安全衛生に関する検証・報告を行った。平成28年度からストレスチェックを実施した。</p> <p>○本学ネットワークのセキュリティ強化に向けて「情報セキュリティポリシー」を作成・改訂し、学内の教職員へ周知を図った上で、ホームページで公開した。</p>	B	計画に基づき、業務を実施していることから自己評価をした。		52	
<p>3 人権啓発に関する目標</p> <p>セクシャルハラスメントやアカデミックハラスメント等により、人権が不当に侵害され、教育研究及び職場環境が損なわれ、ことのないよう、教職員に対して人権意識の向上を図るための取組を行う。</p>	<p>3 人権啓発に関する目標を達成するための措置</p> <p>○学生、教員、事務職員に対し、人権意識の向上を認識させるとともに、各種ハラスメントによる人権侵害を抑制するため、の防止体制と相談体制の強化を図る。</p> <p>○ハラスメント防止対策委員会を運営し、学内のハラスメントに関する検証・報告を行う。</p>	<p>3 人権啓発に関する目標を達成するための措置</p> <p>○学生、教員、事務職員を対象に、ハラスメント防止の取組やハラスメントに係る相談窓口を明記した「ハラスメントに関する手引き」を配布した。</p> <p>○ハラスメント対策委員会を開催し、当該年度の活動実績の報告・検証を行うとともに、次年度の活動計画を決定した。</p>	<p>業務の実績</p> <p>○学生及び教職員をはじめ委託業者など全関係者を対象に、ハラスメント防止の取組やハラスメントに係る相談窓口を明記した「ハラスメントに関する手引き」を配布した。</p> <p>○ハラスメント対策委員会を開催し、当該年度の活動実績の報告・検証を行うとともに、次年度の活動計画を決定した。</p>	B	計画に基づき、業務を実施していることから自己評価をした。		53	

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	業務の実績	自己評価	自己評価の理由	備考	No
<p>実施事項及び内容</p> <p>4 法令遵守に関する目標</p> <p>適正な業務運営の保持増進と社会的信頼を確保するため、教職員目から法令遵守を徹底するとともに、大学教育の一環として学生に対する啓発の取組を行う。</p>	<p>実施事項及び内容</p> <p>4 法令遵守に関する目標を達成するための措置</p> <p>○定期的に実施する研修を通して、教員、事務職員の法令遵守に対する意識の向上を図る。</p>	<p>業務の実績</p> <p>○教員、事務職員の法令遵守の意識向上を図るため、FD研修を実施した。</p> <p>＜FD実施状況＞</p> <p>平成27年度（1回） 1回目：●研究倫理</p> <p>平成28年度（2回） 1回目：●公立大学の制度と課題 2回目：●研究活動上の不正行為及び公的研究費の不正使用の防止</p> <p>平成29年度（2回） 1回目：●発達障害への合理的配慮と授業力の向上 ●本学における障害学生への対応 ●FD活動としてのアクティブ・ラーニング実施方法の検討 ●研究活動上の不正行為及び公的研究費の不正使用の防止</p> <p>2回目：障害のある学生への修学支援</p> <p>平成30年度（2回） 1回目：●“学び続ける教員”の基礎を作る大学の教職課程の在り方 ●本学英語科における初年度教育 ●研究活動上の不正行為及び公的研究費の不正使用の防止</p> <p>2回目：●大学院活性化プロジェクトについて</p> <p>令和元年度（1回） 1回目：●市長講演（地域の中核を担う大学として～青森公立大学に期待すること～） ●研究活動上の不正行為及び公的研究費の不正使用の防止</p> <p>令和2年度（2回） 1回目：●オンライン授業 ●公的研究費の不正使用の防止及び研究活動上の不正行為 ●公的研究費ハンドブックの改正事項等 2回目：●多様化する学生に対する大学院教育の方法</p> <p>○法令に基づく手続き漏れを防止するため、地方独立行政法人法チェックシートを作成した。</p>	<p>自己評価</p> <p>B</p>	<p>自己評価の理由</p> <p>計画に基づき、業務を実施していることから自己評価をBとした。</p>		54

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

中期目標		業務の実績	自己評価	自己評価の理由	備考	No
実施事項及び内容	中期計画 実施事項及び内容					
第6 その他業務運営に関する重要目標						
<p>A：中期目標を上回って達成している 1</p> <p>B：中期目標を十分に達成している 3</p> <p>C：中期目標を十分には達成していない 0</p> <p>D：中期目標を達成していない 0</p>						
特記事項						
<p>○ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年4月8日に「公立大学法人青森公立大学リスクマネジメント規程」に基づき、「新型コロナウイルス感染症に係る危機管理対策本部」を設置し、本学における様々な対応について審議、決定した。</p>						

大項目評価 (中期目標評価)		備考
<p>その他の業務運営に関する目標の達成については、第2期中期計画に基づき実施した結果、概ね次の取組結果となった。</p>		
1	<p><b>施設設備の整備・活用等に関する目標</b></p> <p>施設・設備について、緊急性・必要性を勘案しながら、計画的に整備・改良・維持修繕を行った。</p> <p>また、まちなかラボに大学のサテライト施設としての機能に加え、地域連携センターの地域活動の拠点としての機能や「メディアラボ」機能を追加したほか、青森市の政策研究のための会議の場を提供する環境を整えた。さらには、国際芸術センター青森において、市内小学校を対象とした創作体験の実施するとともに、定期的に展覧会・ワークショップを開催するなど、市民の施設利用促進を図った。</p>	
2	<p><b>安全管理に関する目標</b></p> <p>災害時に交流ホール及び体育館を青森市の指定緊急避難場所及び指定避難所として開放する体制を維持するとともに、教職員や学生を対象とした消防訓練を定期的の実施したほか、職員を自衛消防講習や防火・防災管理者研修に派遣し、自衛消防の体制を整備するなど防火対策・危機管理体制を強化した。</p> <p>また、教職員の健康管理に努めるため、健康診断結果の産業医への報告やストレスチェックを実施したほか、衛生委員会を毎月開催し、安全衛生に関する検証・報告を行った。</p>	
3	<p><b>人権啓発に関する目標</b></p> <p>ハラスメント対策委員会を開催し、当該年度の活動実績の報告・検証を行うとともに、次年度の活動計画を審議した。</p> <p>また、学生及び教職員を含めた全関係者に対し、ハラスメント防止の取組やハラスメントに係る相談窓口等を明記した「ハラスメントに関する手引き」を配布し、人権意識の向上を図った。</p>	
4	<p><b>法令遵守に関する目標</b></p> <p>教員、事務職員の法令遵守に対する意識の向上を図るため、FD研修を実施するとともに、地方独立行政法人法チェックシートを作成し、手続の遺漏防止に努めた。</p>	
<p>これらのことから、その他業務運営については、中期目標を上回って達成している項目が1項目、中期目標を十分に達成している項目が3項目、中期目標を十分には達成していない項目が0項目となっており、十分に達成できたものと評価する。</p>		